



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

資金寄付者感謝状贈呈式並びにお茶会

- 平成21年5月26日
- リーガロイヤルホテル東京



多額のご寄付を下された方に感謝状を贈呈

妃殿下は、結核予防事業資金として結核予防会に多額のご寄付を下された方々に、感謝状をお渡しになりました。

また、式典に続き記念写真とお茶会が行われ、資金寄付者のテーブルにお着きになり、なかなかひとときを過ごされました。



お茶会にて、寄付者とお言葉をかわされる妃殿下

厚生労働省へ表敬訪問



中群全結婦連会長より上田健康局長に決議宣言文を手渡し、今年も複十字シール運動への協力を要請しました。

厚生労働大臣へ要請

7月30日、平成21年度の複十字シール運動開始にあたり厚生労働大臣に表敬訪問を行った。厚生労働省側は、健康局長が対応され、本部からは、仲村理事長・金子専務理事・山下事業部長、全国結核予防婦人団体連絡協議会から中群会長が出席した。

初めに、山下事業部長から結核の現状や課題について説明があり、3月に開催された第60回結核予防全国大会の決議・宣言文を手渡した。その後、中群会長から8月1日から始まる複十字シール運動キャンペーンについて・結核予防会の活動・全国結核予防婦人団体連絡協議会の活動の説明を行った。厚生労働省の協力・支援を要請した。

～旭日小紋章を受賞して～

島根県連合婦人会
会長 赤水 照子



この度、春の叙勲にて旭日小紋章という思いがけない賞を拝受致しました。

これは、多くの方々の御協力に依り頂いたもので、皆様と共に拝受致しました栄誉でございます。本当に有難うございました。

5月13日に夫と共に総理大臣官邸にて、内閣官房長官より勲記及び勲章の伝達を受けました。引きつづき皇居に参内し、春秋の間に於て、天皇陛下に拝謁の栄誉と共に、お言葉を賜わり感激の極みでございました。受賞された方々の中には車椅子の方がいらっしゃいましたが、陛下

はお優しい笑顔で1人1人に頭を下げてお歩きになりました。そのお姿を拝見致しまして、「もったいない」と思うと同時に、今、私達が忘れているのは相手の立場への思いやりの心だと強く思いました。



私は、男女共同参画社会形成推進功労として、受賞をして頂きました。奇しくも今年、男女共同参画社会基本法制定10周年を迎えました。男女の人権が平等に尊重され、性別に関わりなく、その個性と能力を充分に発揮し、責任を分かち合いながら多様な選択をすることが出来る社会

を、実現することを目指して頑張りたいと存じます。

今、人とのつながり、命を大切に、人と地域の絆を深めることこそ最も大切だと思います。1人ひとりの力が、それぞれのカラーで輝く。そして生きていることの誇りが感じられる人生、今後はそれを理想として感謝の日々を送りたいと思います。

今回、大勢の方々からお祝詞を賜わり、又祝賀会を催して頂き、旭日小紋章という身に余る賞を拝受しまして、この賞に恥じないよう社会の為に頑張る所存でございます。



複十字シール運動開始にあたっての
都道府県知事一斉表敬訪問報告



青森県
青森県結核予防婦人会
会長 向井 麗子

7月31日、結核予防婦人は、青森県支部長、長嶺専務理事ら健診センターの方々と共に三村知事を表敬訪問しました。例年の通り、訪問の主旨や結核の現状について申し上げ、運動への御協力をお願い致しました。三村知事は、終始笑顔で私共の説明に大きく頷きながら聴いて下さり、結核予防運動の大切な事も充分理解し、私共も知事から学ぶことも多かった気がします。

3月18日(水)ホテルニューオータニで開催された「財団法人結核予防会創立七十周年記念大会」の様子も報告させて頂きました。天皇陛下のお言葉の中に御自分のお若かった日の健康についての内容もあったこと等も話題になり、結核は決して疎かに

してはならない感染症だと同席した誰もが肝に命じる一幕もありました。

又、私は昨年(平成20年11月～12月)カンボジアスタディツアーに参加しましたので、現地の状況も簡単に報告しました。貧困のため十分な治療を受けることができずに病んでいる患者、ほこりっぽい結核病棟に入院して虚ろな眼で天井を見つめている患者もあり、結核が国によっては日常的な病気だと改めて感じた事。更にびっくりしたのは、プノンペン市内で、茨城ナンバーの健診車に出会った事なども話しました。日本の健診車が現地で活躍している事実については、健診センターの方が説明して下さい、結核予防の国際協力も強調できました。

知事より、「結核は過去の病気ではないから、警戒を怠ってはなりません。結核予防婦人会活動は大切です。今後も頑張ってください」と、力強い激励の言葉を戴きました。

シールぼうやの風呂敷で作ったポーチが、知事室を訪れる方々の眼にとまり、結核予防運動が県民全体の意識化に役立つことを願って一同知事室を辞しました。





茨城県

茨城県健康をまもる女性団体連絡会

理事 瀧ヶ崎 孝子

今年も8月1日から全国一斉に開始される「複十字シール運動」を前に、7月30日、本県の橋本昌知事への表敬訪問を実施いたしました。

結核予防会県支部でもあります県総合健診協会の山口会長を中心に、協会専務理事及び私達、茨城県健康をまもる女性団体連絡会より3名(水戸市2名・かすみがうら市1名)が出席し、結核予防の啓発と重要性を訴え、本運動へのご協力をお願い致しました。

専務理事の進行により、山口会長が目的と茨城の現況をご説明しました。昨年度の募金額は全国で約4億円、茨城は約700万円でした。社会経済不況の影響により、前年度より40万円減ってしまった事は残念な事です。又、女性団体連絡会では、本年3月、東京都で開催された、「結核予防全国大会」の結核対策の決議文を添えて陳情しました。又、今年の複十字シールやパンフレット、ポスター等を知事にお渡しし、各地域における予防活動の状況についてご説明いたしました。

知事からは、今年度も引き続き本運動への推進ご協力を快諾いただきました。



現在、結核は過去の病気のように思われがちですが、茨城においても昨年の新登録者数は422人で、現在も尚深刻な感染症である事に驚きます。今年は又、国内各地での集団感染や人気お笑い芸人の感染が話題となり、マスコミが「結核」を取り上げる機会が例年より増えています。結核への理解を深める良い機会です。又、「結核予防全国大会」において、天皇陛下のお言葉の中で、自らが、過去の感染者の1人であった事をお述べになられた事は、国民1人1人に結核予防活動への強い思いを託された様に感じました。

地球上からの結核根絶を目標に、だれもが健康で明るい生活が出来る様願っています。



香川県

香川県婦人団体連絡協議会

会長 野田 法子

左腕のツベルクリン注射、「どうぞ今年も赤くなっていますように」祈っても、だんだん消えて注射針の痕が点になっているだけ。また、あの痛いBCGを受けねばならない。

3～4センチの赤い注射痕を見せるとなりの友達をしきりと羨んだことをいまだに覚えています。当時は国民病とも言われ、結核はもっとも恐ろしい病気として、注射の痛さにも耐えねばならないと、子ども心にも思わせる力をもっていたのです。

結核は青春の苦悩と生命の儂さを生む土壌にもなっていて、文学作品も生まれ、多くの作家や芸術家、優秀な前途ある若者が死んでいく現実を知っている世代には、その後の医学・医療の進歩によって、結核は過去の感染症だと思っている人が少なくありません。

高齢化が進み、日本人の5人に1人は高齢者ですが、その高齢者の結核感染が増えていることに香川県は憂慮しています。2007年の新規患者は25,311人(県内191人)で、その半数近くは70代以上の高齢者です。若

者の感染の発見遅れとともに高齢者施設などでの集団感染が懸念されているのも然りです。

「さぬき 結核感染 ゼロ作戦」を進めたいと、私たちは8月1日、真鍋県知事を表敬訪問しました。知事には、県内の複十字シール運動の取組みを説明し、今年度の募金目標額達成のためご協力をお願いしました。

四国四県のなかでも香川県は高齢者の感染率が最も高く、感染ゼロ作戦を進めるためにも、とくに高齢者の感染防止に力を入れてほしいと要望しました。

結核予防会のスローガン「結核は、決して過去の病気ではありません」世界的にはいまだに主要な感染症で、予防と治療に複十字シール運動がますます幅広く展開するためにも国民全体の理解と協力が必要だと痛感しています。

先日、電車の吊り広告「結核は、現代の病気だ」を見つけました。

ひとりでも多くの人の目に留まっていたほしいと、この活動にかかわっているせいか、「みんな、見てください！」叫びだしたいほどでした。



全国一斉 複十字シール運動 キャンペーン報告



富山県
富山県結核予防婦人会
理事・結核予防推進
委員長 青山 芳枝

9月24日から始まる全国一斉複十字シール運動に先駆け、9月23日の秋分の日、結核予防会富山県支部、富山県結核予防婦人会では、富山市総曲輪通りで街頭啓発活動を実施しました。当日は、雨が落ちそうな生憎の空模様でしたが、20人余りが3班に分かれ、ショッピングに訪れた人々に「結核に対する正しい知識を持ちましょう。複十字シール運動にご協力をお願いします」と呼びかけ、啓発パンフレットやマスクを手渡ししました。「お疲れ様。ありがとう」とか「気をつけなければね」とか声をかけてくださる方、遠く四国から旅行に来られた家族連れの方もおられて話がはずむ場面もあり、1,000セット用意された啓発パンフレットも30分足らずで配布し終えました。

啓発活動に一役かって出てください



った大道芸人によるバルーンアートはひと際人気があり、カラフルな風船が、みるみるうちに花やプードル等いろいろな形に変わっていき、子供達の長い列ができていました。

このキャンペーンは、例年、秋分の日頃に、富山市中心部や県内のイベント会場等、場所を検討しながら実施してきました。また、「富山県いきいき長寿の祭典」や県内各市町婦人会主催行事等でも、パネル展示や募金活動等を行っています。加えて、今年、6月13日の指導者研修で、結核予防会結核研究所の放射線学科長 星野豊先生にご講演をいただき、リーダー自身の研修を深めました。



結核は、近年、国内では年間3万人近い新たな患者が発生し、死亡者も約2,000人と、決して侮れない病気です。また、不規則な生活や無理なダイエットによる身体の抵抗力の低下、意識の低さによる初期症状の見逃しといったことから若者の罹患率が増加傾向にあることも耳にします。富山県内でも、年々減少してはいますが、それでも毎年200人近い新患者が発生し、70歳以上の高齢者が7割以上を占めるという現状が憂えられます。

私たちにできる活動は、小さなことですが、継続することで実を結ぶであろうことを励みにし、今後も、結核の予防・根絶に向けて活動を展開していきたいものと思っています。



鹿児島県
鹿児島県結核成人病予
防婦人会
会長 湯丸 ミヨ

全国一斉に行われた複十字シール運動キャンペーンの一環として、鹿児島県では8月24日、県庁に行き、庭田清和保健部長を始め課長職の方々に結核予防婦人会活動についてと、今日の複十字シール運動キャンペーンについて説明を申し上げました。保健センター（結核予防会鹿児島県支部）より副理事長、所長、常務、課長、その他私たち婦人会の役員と一緒に話し合いに望みました。

「一生懸命努力して下さる婦人会があって地域の健康が保たれる。うれしいことです」とお話しされ、私たちの活動を認めてもらえたとうれしい気持ちになりました。また、よく了解を頂き、次の鹿児島県中央駅での募金活動につなげることができました。

シールを差し上げると、『こんなものを』という感じでしたが、説明を聞いてくれる人には理解してもらうことができました。無関心層の多さに私も驚いています。でも、これも私たちの仕事です。会員は一生



懸命です。今年は県がよく理解されたので、地区でも活動に努力され、南九州市、与論町、志布志市より、「たすきを貸してほしい。そして理解を求めます。」ということでした。

同日、4ヶ所で訪問も行い、一層効果があったと思います。市長や町長が、「シールは知っていたが、これだけ婦人会の方々によるご苦勞があったとは知らずにおりました。これからは私たちの指導もしっかりします。そしてみんなに知ってもらって結核の根絶を目指して健康で明るい町づくりを皆様と一緒に頑張ります」とお話し下さいました。

この言葉は輪として地域から県へ、そして九州から全国へ…最後は世界に広がることを願っています。

平成21年地区別研修会

日時：平成21年7月10日(金)～11日(土)
場所：国立大雪青少年交流の家(美瑛町)
北海道健康をまもる地域団体連合会
会計 高橋 寿枝

第42回北海道家族の健康をまもる講習会が平成21年7月10日、11日の2日間、美瑛町国立大雪青少年交流の家で開催され、全道各地より75名が受講しました。



今年度より、健康問題を共有し活躍している、北海道食生活改善推進員団体連絡協議会の趣旨賛同を得て、開催事務局として参画いただきました。

1日目、恒例のレクリエーション(ハイキング、パークゴルフ)は、生憎の雨天で中止となり、室内運動(卓球、バドミントン)映画鑑賞で、親睦を深めました。

夜の全体交流では、各団体の活動状況発表、食改善の方々によるデモンストレーションで、会員手作りの布製モチーフ(野菜、果物、魚肉)人形を用いての、体内食物の摂取、消化、排泄、に至るまでのメカニズムを目で見えて理解できる事が印象的でした。

そのあと、会員のインストラクタ

ーによる歌謡ダンスで、心地よい汗を流し、リフレッシュしたひと時でした。



2日目、講義Ⅰ「結核を忘れないで」結核予防会北海道支部長、上村友也先生が結核感染と発病のポイント、根絶に向けての個人の努力について話されました。

講義Ⅱ「がんの予防・検診の最新情報について」北海道対がん協会札幌がん検診センター所長、手林明雄先生によるお話で、対策型検診について、科学的根拠に基づくがん検診、精度管理の必要性について、有意義な講義がありました。

2日間の講習の終わりの日、晴天の十勝岳の連峰が姿を現しました。広大な北海道、各地からの参集は地理的に交通不便の中、大自然の雄大さを実感し、思いを一つにする仲間が次の開催での再会を願いつつ、十勝連峰に見送られ帰路につきました。



日時：平成21年9月3日(木)～4日(金)
場所：愛媛県松山市 ホテル椿館

愛媛県結核予防連合婦人会

会長 川本 登倭子

「健康の歌」を斉唱し、主催者の愛媛県結核予防婦人会長川本登倭子より「結核は、遍在している現代の病気ということを知らな



い一般の人たちに知らしめるべくこの2日間を有意義な研修にしていきたい」と挨拶をのべて、開催された。

愛媛県宇和島市吉田支部の山下仁佐栄さんの実践発表のあと、グループディスカッションを行い、

- ①複十字シールの使い方と啓発の仕方
- ②各婦人会において、どのような学習会を開いているか、または、どのような団体と連携しているか
- ③その他困っている事など

私たちは、何事も起こらないのが当たり前として生活をしているが、結核だけでなく、胸の病気や乳がん、子宮がんなど早期発見でわかることをもっと知ってもらって活動をしなくてはならないと実感した。若い人たちには、「結核」という言葉さえ知らない人が多く、また、中年層は、死語だと思っている人が多い。啓発運動は、婦人会だけでなくイベントに参加した時などに口コミで話を伝えていく必要性を感じた。とりわけシールの使い方や意義がよくわからない会員がいるので、より一層の学習会や研修会への参加を呼びかけていかなければならないと思う。200安打達成したイチロー選手は、9年間、毎日同じことを続けてきたというが、まさに婦人会は同じことを何十年としてきている。時代が変化しても大切な事は変わらない。同じ事を続ける事の大切さを実感し、これからもより一層の啓発運動を続けて行きたい。愛媛県松山市の伝統芸能で盛り上がり、日本最古の道後の湯に浸かって、再度、複十字シール募金を何のためにしているかを世間の人たちに知ってもらう事が大切だということを実感した2日間だった。



グローバルフェスタ JAPAN 2009

10月3日(土)・4日(日)の二日間にわたり、東京都日比谷公園にて行われました「グローバルフェスタJAPAN 2009」に結核予防会が出展致しました。

国際協力についてのイベントで、外務省・JICAなどの共催によるものです。ブースでのパネル展示とワークショップで主にザンビアとフィリピンでの国際協力プロジェクトについて説明を行いました。

日本国内そして、海外へ結核対策を行うために複十字シール募金活動を行っていることを説明し、募金への協力をお願い致しました。複十字シール運動を共催する結核予防婦人団体連絡協議会は、結核対策の国際協力活動を行う結核予防会と共にこれからも歩みを進めます。



イラスト募集

平成22年3月号(健康の輪No.98)に掲載するイラストを募集致します。
花・動物・その他、何でも結構です。
締切は、平成22年1月20日です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-2-12
TEL: 03-3292-9288



現代の病気だ。

他人ごとは思えないね。

結核は、

結核のない世界へ
結核予防会

AC JAPAN